

14. 2イ-747



1200501163458

.21

47

小笠原島水産經營事業成績報告 昭和六年度



始



昭和六年度

小笠原島水産經營事業成績報告

東京府小笠原支廳

昭和六年度小笠原島水産經營事業成績報告目次

調查事業	一、海洋調查	一
	(一) 定置觀測	九
	(二) 海洋橫斷觀測	二
	二、海流調查	二
	三、生物調查	二
漁業試驗	一、鮪漁業試驗	一四
製造試驗	一、鹽乾鯉製造試驗	二一
	二、鯉節製造試驗	二三



142-747

養殖試験

一、綠蠔龜増殖試験……………二七
二、アツゲートル飼育試験……………三二

奨励事業

一、鮮魚冷蔵運搬囑託試験……………三五
二、鯉節製造傳習會……………三五



昭和六年度小笠原島水産經營事業成績報告

昭和六年度小笠原島水産經營事業成績報告

調査事業

一 海洋調査

(一) 一定置観測

趣旨、

本島近海ニ於ケル海況ハ本州沿海トソノ趣キ大イニ異リ、随ツテ之レニ關聯セル各種漁業モ本島獨特ノ方策ヲ樹ツルノ要アリ。仍テ是ガ基礎的研究ヲ行ヒ水産業ノ開發ニ資セントス。

方法、

本廳所屬端艇ヲ以テ前年度同様二見灣内要岩附近ノ定位置ニ於テ毎月二、七、十二、十七、二十二、二十七ノ五日置月六回ノ豫定ニテ毎月正午ヲ期シ表面、十米、二十五米ノ三層ヲ観測ス。

経過、

本年度観測回数ハ五八回其詳細左記ノ如シ。

氣温、

本年度ニ於ケル氣温ノ最高月ハ七、九兩月ノ二九、八度ニシテ最低月ハ二月ノ一八、〇度ナリ。今コノ氣温ノ年變化

ヲ平年(別表最近十ヶ年平均)氣温ト對比スルニソノ變化極メテ著シク二月ヲ除ク他ノ十一ヶ月ハ全部高温ヲ示シ特ニ夏秋期ハソノ差異甚敷十一月ノ如キハ二、九度ノ差異ヲ現出セリ。

水温、
表面層ニ於ケル本年度ノ概況ヲ通觀スルニ四月ヨリ六月ニ至ル三ヶ月間ハ順調ナル温度ノ上昇ヲ見タリシモ七月ニ入リテ俄然二七、九度ナル最高温月ヲ現出シ六月ト七月トノ差異三、七度ヲ示セリ、七月以降十月迄ハ變化ノ著シキモノナク高温ヲ持續セシモ十一月ヨリ漸次降下ノ傾向ヲ辿リ翌三月一九、七度ナル最低示温ヲ現セリ。最近十ヶ年平均ト比較對照スルニ氣温ニ於テハ一年間中十一ヶ月間ハ高温ナリシト雖モ表面水温ニテハ七、八、九、十、十一、一月ノ六ヶ月ノ高温ニ對シ他ノ六ヶ月ハ低濕ヲ表ハセリ而シテ是等高低差異ノ中最モソノ差異ノ著シキハ七月ノ一、二度及十月ノ一、四度ナル高濕ニシテ低濕月ハ一度以上ノ差異アルヲ見ザルナリ。今コノ兩者ヲ各月毎ニ順次對比ノ上說述スルニ四月ハ〇、四度、五月ハ〇、六度、六月ハ〇、三度ノ低濕ヲ示シ兩者ノ平均値略々相似タルモノアリト雖モ七月ニ入リテ之等ト反對ニ一、二度ノ高温ヲ示シ八月ノ〇、二度、九月ノ〇、三度ト差異僅少ナル高温月ヲ過シ十月ノ一、四度、十一月ノ一、一度ナル極大高温差異ヲ見タル後十二月〇、三度、一月〇、三度、二月ノ〇、一度、三月ノ〇、九度ト微々タル高温差異ヲ現ハセリ。十米層、コノ層ハ表面層ニ比シ各月共低濕ニシテソノ差異ノ最大ナルハ六月ノ一、二度、最小ナルハ二月ノ〇、一度ナリ今コノ層ノ年變化ヲ見ルニ表面層ト畧々同様ナルガ如キ觀ナキニ非ズト雖モ十月ヨリ十一月ニ至ル間ニ於テ表面層ノ如ク急激ナル變調ヲ見ズシテ自然ノ低下ヲ現ハセリ。二十五米層、コノ層ニ於ケル絶對高温月ハ七月ノ二六、九度ニシテ低濕月ハ三月ノ一九、四度ヲ以テ最小トス。

年變化ハ六月ヨリ七月ニ及ブ間ニ於テ四、一度ナル驚異の差異ヲ除キ他ハ比較的順調トス。

比重、表面比重ニ於テ本年中ノ最高比重月ハ六月ノ二六、一八度ニシテ最低月ハ六月ノ二五、二〇ヲ以テ最小トス今コノ年變化ヲ最近十ヶ年平均値ト對比スルニ四、六、七、八、十一、二ノ各月ハソノ差異甚敷モノニシテ就中ソノ著シキモノハ十一月ノ〇、六九ナル高比重差異及六月ノ〇、六七ナル低比重差異トス、概シテ本年度ハ平年ニ比シ低比重ナラズシテ四、六、七月ヲ除ク他ノ九ヶ月ハ高比重ナリ。

十米層、コノ層ニ於ケル年變化ハ秋冬期ニ著シキ高比重ヲ現出シ春夏期ハ比較的 low 比重ナリキ。二十五米層、コノ層ニ於テ前述十米層ヨリ高比重ヲ見タルハ四、五、六、八、九、十、十二、一月ノ八ヶ月ニシテ他ノ四ヶ月ハ低比重ナリ、年變化ハ概シテ復雜ナレド四月ヨリ漸次上昇ノ經路ヲ辿レリ。

透明度、各月中最大透明度ヲ現セシハ一月ノ三一、五米、最小ナリシハ七月ノ二〇、二米ニシテ年變化ノ状態ハ四月ヨリ八月迄ハ大ナル變化ヲ見ザリシモ九月ニ入リテ俄カニ大トナリ翌年二月迄平均畧々コノ深度ヲ持續シ三月ニ入リテ幾分小トナレリ、今是レヲ最近十ヶ年平均値ト對照スルニソノ差異ノ著シキハ七月ノ三、九米(小)、八月ノ三、五米(大)、十月ノ五、〇米(大)、十一月ノ六、四米(大)、一月ノ九、九米(大)、二月ノ五、三米(大)ニシテ一般ニ大ナル月ノ多カリシヲ見タリキ。

附表

- 一、昭和六年度海洋觀測表
- 一、昭和六年度各月平均海洋觀測表
- 一、最近十ヶ年各月平均ト本年度海洋觀測表

一、昭和六年度水温、比重、透明度各月平均曲线图

昭和六年度海洋観測表

月	昭和六年四月	五月	六月	七月
日	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二
時	正后			
雲量	九八四三〇	四五二二八七	八九八八	四四六七三
風向	ESSS W W E	EENENN EE	SW NN S R W	SSS SS W WW
風力	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二
水色	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二
透明度	八三三〇〇 〇〇〇〇	五七三三三 〇〇〇〇	二二二二二 〇〇〇〇	五九八〇〇 〇〇〇〇
月齡				
潮候				
潮流				
方向				
速度				
氣温	二八二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇
水面	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇
十米	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇
二十五米	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇	二二二二 〇〇〇〇
表面	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇
十米	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇
二十五米	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇	一〇五九 〇〇〇〇

昭和七年	十二月	十一月	十月	九月	八月
七二 日日 日日 日日 日日 日日 日日 日日	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二	二二 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七二
	三四〇一一	三 八八三	四八六七三	三七二八五	四三九四
	SS SEN E W	S NSE E	EENNNN E	NNNNNN EEEE	NNNN E
	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二
	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二	二二二二
	三三三三 〇〇〇〇	三三三三 〇〇〇〇	三三三三 〇〇〇〇	三三三三 〇〇〇〇	三三三三 〇〇〇〇
	九〇二二 三三	五二七二 五二	六六六六 一一	〇〇〇〇 一一	元元元元 五二
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三
	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三	二二二二 三三

年月	昭和六年平均	昭和六年四月	五月	六月	七月	八月
氣温	二〇、三	二一、〇	二二、三	二二、四	二二、五	二二、七
増減	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
表面水温	二〇、七	二一、九	二二、五	二二、四	二二、七	二二、七
増減	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)
表面比重	一、〇二五八九	一、〇二五五〇	一、〇二五八七	一、〇二五八七	一、〇二五八七	一、〇二五八七
増減	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
透明度	二〇、三	二〇、六	二〇、七	二〇、六	二〇、三	二〇、三
増減	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)

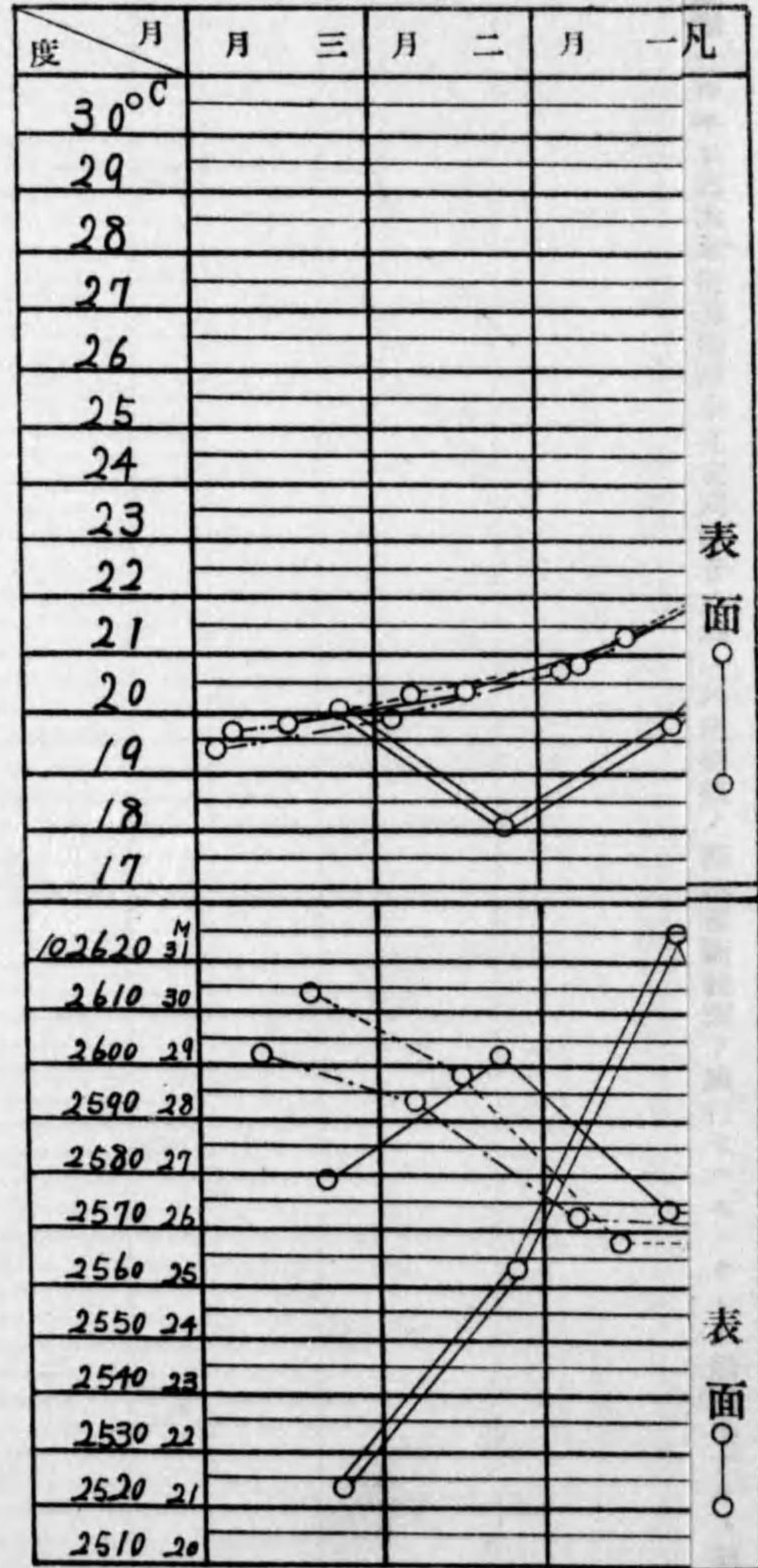
最近十ヶ年各月平均ト本年度海洋観測表

昭和七年	十一月	十二月	一月	二月	三月
氣温	二九、三	二七、四	二二、七	一九、七	一八、〇
増減	二七、八	二五、八	二二、五	二一、二	二〇、三
表面水温	二六、七	二五、一	二二、二	二〇、九	二〇、二
増減	二五、五	二四、一	二二、〇	二〇、七	一九、九
表面比重	一、〇二五九六	一、〇二五八七	一、〇二五七二	一、〇二五七二	一、〇二五七二
増減	二五、九	二五、八	二五、七	二五、九	二五、九
透明度	二六、〇	二五、八	二五、七	二五、九	二六、一
増減	二七、八	二四、〇	三一、五	二五、二	二一、二

年月	昭和六年四月	五月	六月	七月	八月	九月
氣温	二二、〇	二二、四	二二、九	二二、八	二二、三	二二、八
増減	二〇、七	二一、九	二四、二	二七、九	二七、二	二七、一
表面水温	二〇、五	二一、六	二二、〇	二二、四	二二、五	二二、五
増減	二〇、三	二一、六	二二、八	二二、九	二二、一	二二、五
表面比重	一、〇二五五〇	一、〇二五八七	一、〇二五二〇	一、〇二五六一	一、〇二五六六	一、〇二五八〇
増減	一、〇二五五八	一、〇二五八九	一、〇二五二二	一、〇二五六二	一、〇二五六三	一、〇二五七六
透明度	二〇、六	二〇、六	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二
増減	二〇、六	二〇、六	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二

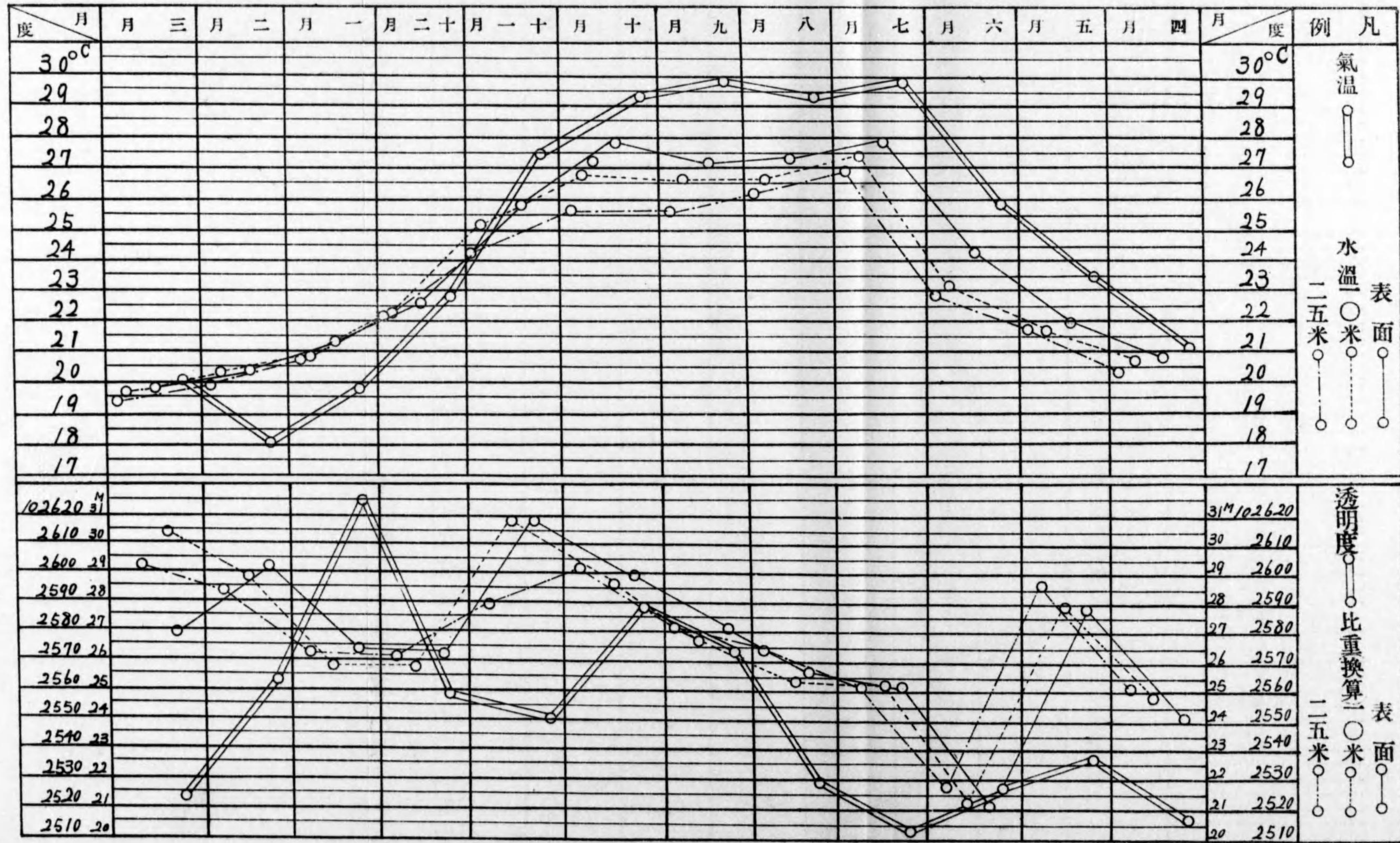
昭和六年度各月平均海洋観測表

年月	一月	二月	三月
氣温	二二、七	二二、七	二二、七
表面水温	二〇、三	二〇、三	二〇、三
表面比重	一、〇二五八五	一、〇二五八五	一、〇二五八五
透明度	二二、七	二二、七	二二、七



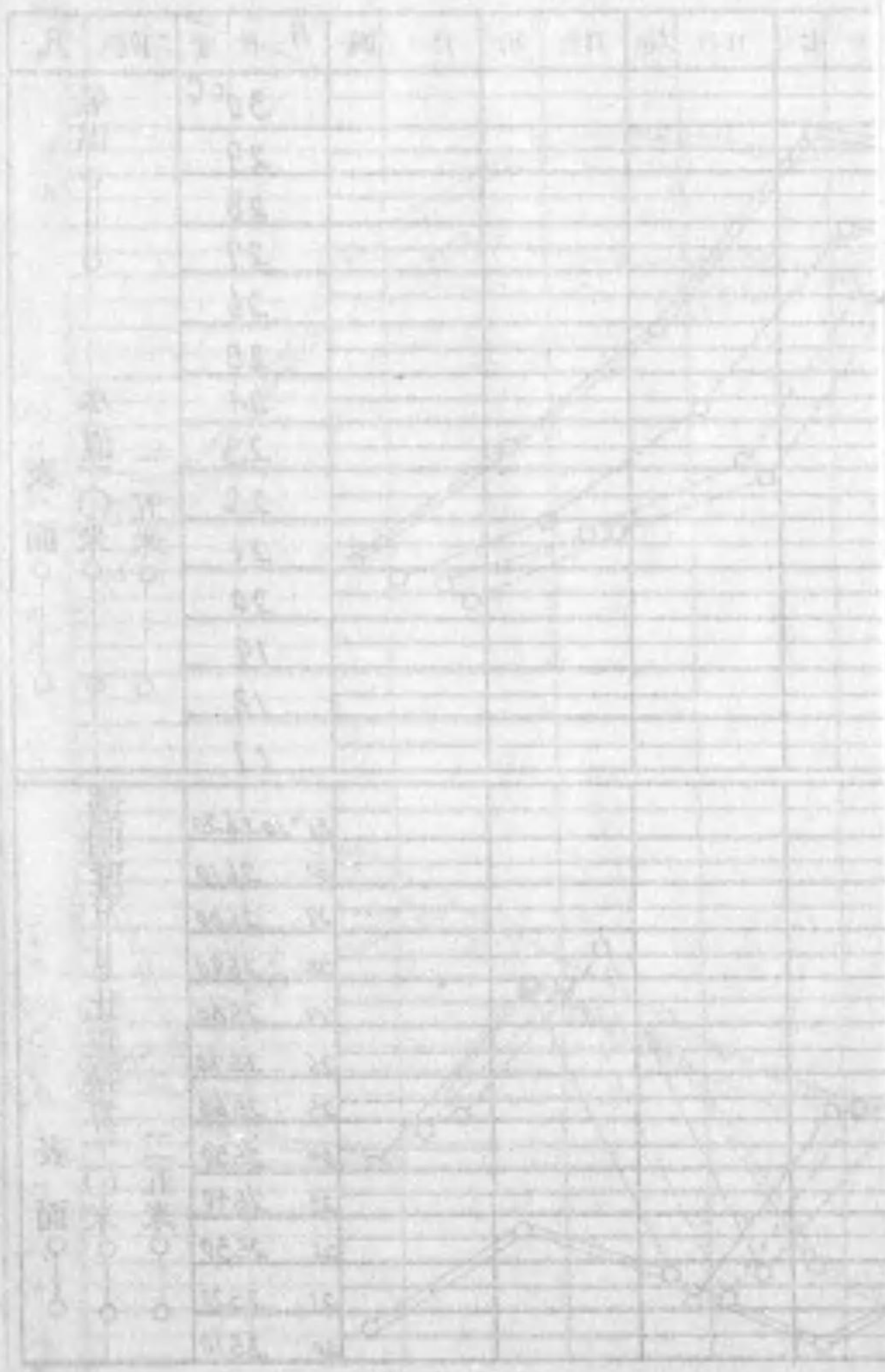
昭和六年度水温比重透明度各月平均曲線圖

三 月	二 月	昭和 十七 年平 均 一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月
二〇、〇	一八、〇	一九、八	二二、七	二七、四	二九、三	二九、八
(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
〇、五	〇、三	〇、七	一、一	二、九	二、五	一、九
一九、七	二〇、三	二二、二	二二、五	二三、八	二七、八	二七、一
(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)
〇、九	〇、一	〇、三	〇、三	一、一	一、四	〇、三
二五七九	二六〇一	二五七二	二五七一	二六一八	二五九九	二五八〇
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
〇、〇六	〇、四二	〇、一二	〇、〇八	〇、六九	〇、二九	〇、〇五
二二、二	一九、八	三一、五	二四、九	二四、〇	二七、八	二六、三
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
一、四	五、三	九、九	二、五	六、四	五、〇	一、四



昭和六年度水温比重透明度各月平均曲线图

三月
一九五
二〇〇
(+) 〇、五
一九七
(-) 〇、九
二五七三
二五七九
(+) 〇、〇六
一九八
二一、二
(+) 一、四



(二) 海洋横断観測

(自小笠原島父島
至千葉縣洲ノ崎)間

(自昭和六年七月十五日
至昭和六年八月五日)施行

本観測ハ毎年本廳漁業指導船海幸丸定期検査ノ爲メ内地廻航ノ際本横断観測ヲ施行セルモノナレド船體小ナルト速力遅キヲ以テ深層ノ観測ヲナシ能ハザルハ遺憾トスル處ナリ。

左ニ表層ノミナル本観測ノ概況ヲ記サン。
水温、往航ニ於ケル水温ノ概況ヲ述ブルニ、本航海中最高温ヲ示セシハ第二観測點ノ二九・六度ニシテ最低温ハ第一二〇観測點ノ二二・四度ナリ、而シテコノ兩地點間ニ及ボス示温ノ差異ハ七度以上ヲ示セリト雖モ概シテ本島ヨリ内地ニ至ルニ從ヒ低温ナルヲ現出セリ。

復航モ亦往航ノ如ク本島ニ向フニ從ヒ高温ヲ現セドソノ型式ハ稍々壞レタル感アリ即チ九、十月頃ニ於テ現出スル黒潮ノ高温ニ漸次影響セラレツ、アルモノナラン。

比重、往航ニ於ケル比重モ亦第二観測點ノ二五・九〇ヲ最大トスレド最低ハ第一七観測點ノ二五・二八ヲ以テ最低トナス、變化ノ著シキハ自第九観測點至第一三観測點ナリトス。

復航ニ於ケル比重ハ往航ニ比シ大ナル最低差異並變化ヲ現出シ、第一観測點ノ二三・六八ナル低比重ヲ見ル、亦第五、第六観測點ノ變化モ見ルベキモノニシテソノ差〇〇・六九ヲ現ハセリ。

小笠原島至橫斷觀測線

觀測點	月	日	時	觀測位置		雲量	風向	風力	氣温	水温	鹽分量	流向	比重
				N	E								
一	七	一五	九、四〇	一四二、九〇	二七、七〇	一	S	一	二八、五	二七、〇	二五八六	E	
二	七	一五	二、〇〇	一四二、六〇	二七、二一	二	S	一	二九、八	二九、六	二五九〇		
三	七	一五	一六、〇〇	一四二、五五	二七、四七	二	S	一	二九、七	二八、七	二五七一		
四	七	一五	〇、〇〇	一四一、四一	二八、一五	二	S	一	二七、七	二七、七	二五七一		
五	七	一五	四、〇〇	一四一、二七	二八、四二	二	S	一	二七、二	二七、〇	二五七三		
六	七	一五	八、〇〇	一四一、一四	二八、九〇	二	S	一	二六、四	二五、八	二五七一		
七	七	一五	一二、〇〇	一四〇、四八	二九、五〇	二	S	一	二七、三	二六、三	二五六二		
八	七	一五	一六、〇〇	一四〇、二八	三〇、一九	二	S	一	二七、四	二六、二	二五五八		
九	七	一五	二〇、〇〇	一四〇、一七	三〇、四五	二	S	一	二六、二	二五、八	二五七〇		
〇	七	一五	二四、〇〇	一四〇、〇九	三一、一一	二	S	一	二五、八	二五、八	二五八三		
一	七	一五	二八、〇〇	一四〇、〇〇	三一、三七	二	S	一	二六、四	二五、四	二五八三		
二	七	一五	三二、〇〇	一三九、五六	三二、三九	二	S	一	二六、六	二六、二	二五五〇		
三	七	一五	三六、〇〇	一三九、四八	三二、五七	二	S	一	二五、五	二五、二	二五四四		
四	七	一五	四〇、〇〇	一三九、四二	三三、三〇	二	S	一	二五、四	二五、二	二五四四		
五	七	一五	四四、〇〇	一三九、四〇	三三、五三	二	S	一	二五、四	二七、〇	二五〇七		
六	七	一五	四八、〇〇	一三九、三六	三四、二三	二	S	一	二五、二	二六、四	二五〇七		
七	七	一五	五二、〇〇	一三九、三六	三四、五〇	二	S	一	二五、八	二六、四	二五〇七		
八	七	一五	五六、〇〇	一三九、四三	三五、三〇	二	S	一	二五、四	二七、一	二五〇七		
九	七	一五	〇〇、〇〇	一三九、五〇	三五、八〇	二	S	一	二七、〇	二八、〇	二五三六		
〇	七	一五	〇四、〇〇	一三九、五四	三二、八〇	二	S	一	二七、一	二七、一	二五三一		
一	七	一五	〇八、〇〇	一四〇、〇〇	三一、四〇	二	S	一	二六、八	二六、八	二五三一		
二	七	一五	一二、〇〇	一四〇、一〇	三一、一三	二	S	一	二六、八	二七、二	二五三一		
三	七	一五	一六、〇〇	一四〇、二八	三〇、四六	二	S	一	二六、八	二六、八	二五五九		
四	七	一五	二〇、〇〇	一四〇、三八	二九、五二	二	S	一	二七、八	二七、二	二五五九		
五	七	一五	二四、〇〇	一四〇、五二	二九、二六	二	S	一	二八、四	二八、二	二五七〇		

小笠原島至橫斷觀測線

觀測點	月	日	時	觀測位置		雲量	風向	風力	氣温	水温	鹽分量	比重	流向
				N	E								
一	八	二	一〇、二五	一三九、四三	三五、〇〇	四	S	一	二五、八	二四、五	二三六八		
二	八	二	一一、〇〇	一三九、三八	三四、五〇	四	S	一	二五、二	二四、六	二五一五		
三	八	二	一二、〇〇	一三九、三六	三四、二三	四	S	一	二五、八	二六、四	二五〇七		
四	八	二	一六、〇〇	一三九、四二	三三、五三	四	S	一	二五、二	二七、〇	二五〇七		
五	八	二	二〇、〇〇	一三九、四〇	三三、三〇	四	S	一	二五、四	二七、一	二五〇七		
六	八	二	二四、〇〇	一三九、四三	三三、八〇	八	S	一	二五、四	二七、一	二五七六		
七	八	二	二八、〇〇	一三九、五〇	三二、三六	九	S	一	二七、〇	二八、〇	二五三六		
八	八	二	三二、〇〇	一三九、五四	三二、八〇	九	S	一	二七、一	二七、一	二五三一		
九	八	二	三六、〇〇	一四〇、〇〇	三一、四〇	九	S	一	二六、八	二六、八	二五三一		
〇	八	二	四〇、〇〇	一四〇、一〇	三一、一三	五	S	一	二六、八	二七、二	二五三一		
一	八	二	四四、〇〇	一四〇、二八	三〇、四六	三	S	一	二六、八	二六、八	二五五九		
二	八	二	四八、〇〇	一四〇、三八	二九、五二	四	S	一	二七、八	二七、二	二五五九		
三	八	二	五二、〇〇	一四〇、五二	二九、二六	二	S	一	二八、四	二八、二	二五七〇		

一五	一六	一七	一八	一九	二〇
八	八	五	八	八	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
一六、〇〇	二〇、〇〇	〇、〇〇	四、〇〇	八、〇〇	一二、〇〇
一四、一六〇	一四、一二二	一四、一三四	一四、一五三	一四、二二〇	一四、二一〇
二九、五一	二八、四二	二八、二一	二七、五九	二七、七三	二七、八一
五	三	七	九	二	九
SE	SE	SE	S	E	E
二	三	三	三	二	三
二八、二	二七、七	二六、八	二六、四	二八、二	二九、二
二八、〇	二八、二	二七、八	二七、七	二八、〇	二六、二
二五四	二五八	二四九	二五七	二五七	二五七
四	九	八	七	六	三
SE	SE	E	SE	SE	SE

一 海流調査

本年度ニ於ケル本調査ノ目的、方法、投罾位置並日時ヲ左記ニヨリ施行ス。

(一) 目的

伊豆、八丈島南方ヨリ發セル黒潮一分派ノ本群島近海ニ於ケル流速、流向、水帯範圍或ハソノ消長ニ關シ知得スルヲ本年度ノ調査目的トス。

(二) 方法

本廳漁業指導船海幸丸ニ例年施行セル様式ニ依ル投流罾五百本ヲ搭載シ左記二箇所ヨリ二百五十本宛投流ス。

(三) 投罾位置

- (A) 北緯 二七度 七分
東經、 一四二度 三七分
(父島東方二十哩)
- (B) 北緯 二七度 八分
東經、 一四二度 五九分
(父島東方四十哩)

- (四) 投罾月日 和和七年三月二十四日
- (五) 本年度漂着調

- ◎ A位置ニ於ケル投罾當時ノ氣象
雲量 八。 風向 南南西。 風力 一。
氣温 二二度二。 表面水温 二二度二。
- ◎ B位置ニ於ケル投罾當時ノ氣象
雲量 八。 風向 西。 風力 一。
氣温 二二度八。 表面水温 二〇度二。

本廳ニ届出テタル海流罾左ノ如シ。

投入者	投入位置	投入年月日	拾得位置	拾得年月日	經過日數	拾得者
本廳	E 一四〇、七〇 N 三二、二八	昭和六年三月二十六日 午前九時	千葉縣夷隅郡東海村田川口	昭和六年五月九日	四五日	實方倉吉
			神奈川県三崎町			皆早熊吉

南方二十五湊	五月三日	三九日	波邊勝藏
千葉縣夷隅郡勝浦燈臺南東五湊	五月六日	四二日	萩原吉
静岡縣加茂郡下河津村見高沖三湊	四月四日	一〇日	萩原吉
茨城縣鹿島郡高松村栗生湊	九月二日	一六日	野口磯松

一四

前記、拾得資料ヲ通觀スルニ北緯三二度二八分東經一四〇度〇七分ナル青ヶ島東方一二湊ヨリ投流セシモノガ千葉、神奈川、静岡、茨城ノ各縣近海ニテ拾得セラレタル是等ノ流路ヲ考察スレバ、該投流地點ハ日本海流ガ南北ニ羅列セル伊豆諸島ノ突起物ニ流向、流勢ヲ阻害セラレ北ニ、南ニ、分派ヲ出シ復雜セル潮流交錯セル處ナルヲ以テ南下スルニ到ラズシテ北上潮流ニ乗ゼシモノナランカト思考セラル。

三 生物調査

本年度ニ於ケル本調査ハ別冊刊行豫定ノ「小笠群島近海生物調査概要」ニテ記述ス。

漁業試験

鮪漁業試験

(一) 趣旨

本群島近海ニ於ケル鮪漁場ハ逐年荒廢ニ傾キツ、アリ仍テ本年度ハ調査不充分ニシテ且該漁業ニ有望ナル鰈島沿海ノ調査ヲナシ以テ本島鮪漁業ノ開發ニ資セントス。

(二) 方法

本廳漁業指導船海幸丸(四一噸七五馬力)ニ乗組員八名、臨時漁夫四名ヲ乗組マシメ從來施行セル六本付延繩及一本釣漁業試験ヲナセリ。

(三) 經過

試験準備ハ昭和六年十一月十日ニ始マリ、全二十六日出漁ヲ開始シ、翌昭和七年一月十九日ヲ以テ終了ス、而シテ本試験期間中ニ於ケル出漁日數ハ參拾貳日、漁具使用回数貳拾四回、漁獲貫數壹千六百貫、コノ賣上金額壹千八百圓(當地相場)ナリキ。

(四) 漁況

十一月中漁況。出漁開始ハ下旬ニシテ各漁場共漁事振ハズ。
 十二月中漁況。上旬ハ前月ニ引續キ魚群ノ洄游少ナキモ鰈島近海ニ於テ多少ノ黃肌及目鉢ノ漁事アリ、中旬ハ天候不良ニシテ休漁多ク、下旬ニ入りテ嫁島西方沖合ニ各種魚群ノ洄游アリキ。
 一月中漁況。上旬ハ天候不良ニテ殆ンド休漁ノ止ムナキニ至リシモ、中旬ヨリ嫁島西方沖合ニ魚群ノ洄游多ク盛漁ナリキ。

本島重要漁業ノ一タル鯉ハ現在主トシテ節製造ニ利用セルモ、之ニ比シ比較的有利ニシテ且目下ノ如キ節類下落ノ場合ニ備フル爲メ從前島内ニ於テ自家用ニ試ミタル鯉鹽乾品ノ最モ本島ニ適應セル製法ノ改良ヲ講究シ以テ優良製品ノ移出ヲ計ルベク前記趣旨ニ基キ本試驗ヲ施行セリ。

(二) 方法

九月三日、第一號、原料鯉二〇四尾、重量六・四〇〇匁(一尾、平均三一匁)原料着スルヤ即時腹開キトナシ稀薄鹽水中ニテ竹製齒揚子ヲ以テ腹部ノ血合ヲ良ク洗滌シ尙別ノ稀薄鹽水中ニテ三十分間血拔後豫メ製シタル左記配合ヲ以テ混和溶解セシメ其上塗液ニ午後十時浸漬ス。

清水一斗ニ付、氷錯酸二匁、石灰二匁、食鹽二升。

九月四日、昨夜鹽漬セル原料ヲ午前五時取出シ血拔及鹽抜ノ目的ヲ以テ稀薄鹽水中ニ三十分間浸漬後セーロー上ニ肉肌ヲ上部トシ日乾セリ。

九月五日、日乾放冷後夕刻重壓ヲナシ整形ヲナス。

第二號、原料鯉五〇五尾、重量一五・九六〇匁(一尾、平均三二匁)原料處理ハ第一號ト同様ニシテ左記鹽水中ニ八時間浸漬ス。

清水一斗ニ付、食鹽三升三合、石灰三匁、氷錯酸五匁。

九月六日、第一號整形セルモノヲ日乾製了ス。

第二號ノ日乾及整形ハ第一號同様ノ方法ヲ以テ九月九日製了セリ。

(三) 品評ノ概要。

今回ノ試製品ハ從來ノ試製品ヨリ良好ナリシモ尙鹽量其他ノ配合ニ付試驗研究ノ必要アリ。
本島ニ於テ鹽乾品ノ日乾ハ早朝日出前迄ニセーロー上ニ並列シ水切風乾セシメザレバ日乾中赤色ヲ帶ビ風味及外觀ヲ損スル事大ナリ。

一 鯉節製造試驗

(一) 趣旨。

前年度ニ基キ魚價協定ノ資ニ供スル爲メ、本島漁獲鯉ノ大小ニ依ル歩留ヲ試驗セリ。

試驗開始月日 昭和六年九月五日

(二) 方法。

左記原料ノ内試驗ニ供セシモノ一尾 自六百匁ノモノ六尾ト 自三百六十二匁ノモノ五尾ニ付各部ノ歩留ヲ試驗セリ。

原料 鯉一九四尾。重量八〇貫(一尾平均四一二匁)
煮熟時間 四十分。 煮熟溫度 九八度(攝氏)

生切各部ノ歩留

要目	大						小					
	一尾重量	全上	全上	全上	全上	平均歩留	一尾重量	全上	全上	全上	平均歩留	
原料鯉	六〇〇匁	五六六匁	五三一匁	五〇七匁	四六三匁	四一二匁	總量三、〇七九匁	三六二匁	三一八匁	二七四匁	二二六匁	總量一、一八〇匁

父島漁業組合ニ於テ蕃殖保護ノ目的ヲ以テ特ニ禁漁期間タル六、七月中ニ産卵ノ爲メ匍上スル雌龜五十頭捕獲ノ許可ヲ得、本廳ト共同ヲ以テ前年度同様ノ方法ニ依リ本試験ヲ施行ス。

(三) 経過及成績

試験開始ハ六月上旬ニシテ同終了ハ十月上旬ナリ、此ノ間採卵ハ六月二十四日ニ始マリ八月十二日ヲ以テ終了爾後孵化、飼育、放流等ノ作業ヲ行フ。

試験成績次ノ如シ、

採卵供試頭數ハ二二頭ニシテ内畜養中ニ産卵セルモノ一〇頭、全然産卵スルニ至ラズシテ屠殺シタルモノ一二頭ナリ産卵回数ハ延一九回ニシテ總卵數一九八〇個ヲ採卵ス、一頭一回分ノ産卵數一〇四個強ニシテ四回産卵ノモノ一頭三回産卵ノモノ二頭、二回産卵ノモノ二頭、一回産卵ノモノ五頭ナリ。
埋卵座總數一九座中全然孵化セザルモノ四座、一〇%以下ノモノ四座、一〇—三〇%ノモノ四座、三〇—五〇%ノモノ六座、五〇—七〇%ノモノ一座ニシテ全然孵化セザル四座ヲ除キシ孵化成績ハ二九・七三%ナリ。
孵化頭數ハ四七七頭ニシテ埋卵總數タル一九八〇個ニ對シ二四・九一%ナリ。
飼育及稚龜放流ハ孵化後數日ヲ經テ臍囊癒着シ探餌ヲ始ムル頃ヨリ魚肉ヲ賽目ニ刻ミテ投與シ體重約一五匁乃至二〇匁、腹甲稍々黒色ヲ帶ブルニ及ビ二見灣内適當ノ場所ニ放流セリ。其ノ放流總數四六五頭ナリ。
標識ハ背甲右後縁ニ缺ヲ三角形ニ入レ本年度ノ標識トセリ。
左表ニ示セル從來ノ孵化成績並放流頭數ト本年度ヲ對比スルニ孵化率ニ於テハ略々ソノ中位ヲ占ムルト雖モ放流數ニ於テハ近年稀ニ見ルノ僅數ナリ、是レ産卵期ニ及ボス水温ノ變調ガ産卵母龜ノ匍上ヲ早メ試験開始ノ際ハ産卵匍上期

ノ大半ヲ過シ、加フルニ例年ヨリ産卵洄游數ノ僅少ナリシガ母龜捕獲ノ少數ヲ招來セルモノニシテ、將來ニ於ケル該試験ノ開始期ニ對シ相當考慮ヲ要スベキモノナリト思考セラル。

年 別	解 化 率	稚龜放流數	年 別	解 化 率	稚龜放流數
大正十一年	一六・五%	六三四頭	昭和二年	二八・六%	二、二七三頭
大正十二年	二二・四%	一一八頭	昭和三年	三〇・一%	二、五七三頭
大正十三年	二四・九%	二、二六六頭	昭和四年	四一・九%	二、七一五頭
大正十四年	二八・〇%	九〇八頭	昭和五年	一八・九%	一、五六四頭
大正十五年	一八・〇%	一、〇四四頭	昭和六年	二四・九%	四六五頭

參考附表

一、各龜別孵化成績表

各 龜 別 解 化 成 績 表

一 號	母龜番號	産卵順位	屠殺	フレイム内外區別		埋卵數	字化數	字化百分比	字化所要日數	平均一日所要地温量	備 考
				内	外						
一						一三五	五四	四〇・〇〇%	六〇日	二九度三	

▲ 昭和七年三月二十七日父島沿海ニ於テ前川福一郎ニヨリ捕獲セラレタル「ウエントル」(稚龜) 標識記録左

記ノ如シ

腹中縦徑、一尺一寸七分 脊中縦徑、一尺四寸五分 體重二貫六百匁 標識傷幅、五分
腹中横徑、一尺一寸二分 脊中横徑、一尺三寸二分 標識傷深、五分

標識箇所、背甲左後縁ニシテ尾部ヲ中心トセル縁板第二枚目ノ中間、經過年月數、約一年九箇月、

一 アリゲートル飼育試験

前年度ニ引續キ施行シ來リシ處、本年六月三十日雄鰐死亡シ本試験ニ一頓座ヲ生ゼリ。

死亡原因ハ老衰ナルヤ、病因ナルヤ不明ナレド死體解剖ノ際筋肉中或ハ腸壁ノ各所ニ結石狀ノモノヲ多數發見シ他ニ何等異狀ナシ。

採餌ハ前年ヨリ進マザリシモ本年ニ入りテ尙一層甚敷五月以後ノ採餌量魚肉一貫匁ヲ出デスシテ、解剖ノ際胃腸内ニ何等未消化ナルモノヲ認メズ。

發情ハ毎年五月上旬ニ於テ該行爲ヲ發見スルモノナレド本年ハ之レガ動作ヲ認メザル等ノ事實ヨリ考察スルニ死因ハ前年度來ヨリ因セシモノナランカト思惟ス。

體長 一〇尺八寸
死亡當時 體重 約六〇貫

尙現存セル雌鰐ハ昨年度以來殆ンド同様ニシテ其後ノ成長ヲ認メズ。

獎勵事業

一 鮮魚冷藏運搬囑託試験

前年度同様本廳所屬冷藏運搬船拓南丸ヲ小笠原水産株式會社ニ使用セシメ本島東京間ニ於ケル鮮魚冷藏運搬試験ヲ囑託ス。

右囑託事業ニ關シ、前記小笠原水産株式會社ヨリ報告シタル成績概要、鮮魚積送表及拓南丸鮮魚冷藏運搬作業報告書ヲ左ニ掲記ス。

(一) 成績ノ概要

小笠原島鮮魚運搬業ニ就テハ年ヲ逐フテ運搬魚族ノ鮮魚優良ナリツ、アリ、各漁船ノ取扱作業モ漸次熟練シ、大ニ鮮度ニ於テ更マル處アリシガ不幸ニシテ漁獲高少ク從ヒテ當地氷藏及冷凍期間延長シ其ノ目的ヲ達シ得ザルハ甚々遺憾トスル處ナリ、漁獲高ハ將來精船ノ改造及餌料ノ圓滑ノ攻究ニ因リ益々有望ナルハ疑ヒナキ處ナリ。

本期ニ於テ特筆スヘキハ多年懸案タル硫黃島飛魚運搬ナリ、二月中旬拓南丸同地ニ向ケ事業開始セルモ天候不穩豫期ノ成績ヲ得ザリキ。然ルニ拓南丸同地ニ碇泊中僅カ三日間ノ從漁ニテ飛魚三萬七千餘尾積載シ天候恢復ノ見込ナク二月二十四日父島ニ歸港セリ。

東京市場ニ於ケル飛魚賣行相當ノ聲價ヲ得タリ。飛魚盛漁期ハ三月ニシテ且ツ滿載ハ天候ノ如何ニ據ル所ナレバ漁夫一同更ニ勇往邁進奮勵シツツアリ。尙拓南丸モ再ビ回航ノ豫定ナリ。

本期輸送鮮魚次ノ如シ。

鮮魚積送表

(昭和六年度)

種類	航海							田子浦丸	合計
	出帆日	第一次航	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次		
きばだ	十一月十六日	十二月一日	十二月十二日	十二月二十五日	一月十二日	一月二十八日	二月十四日	二月十七日	一一一、一三
めばち	三六四尾	二九七	四〇〇	三七九	二二二	三三四	二〇四	七六	一七四、八三
とんぼ	一三六九	一三五四	一四七七	一七二六	一二二一	一三五九	一〇五八	一九六	一七四、八三
さわら	六〇、四一	一九二、七五	一三九九	七八五	六四六	一三五九	二一八	一九六	一七四、八三
かじき	一一七、九八	九七〇、九	九四八、九	五五〇、七五	一六五六	一三三、七	四九〇	二一、七	一七四、八三
めかじき	二四、五三	四七、七	七三、七五	四七、八五	一四七、四	六一、四	二二、五	一八、五	一七四、八三
さめ	二〇八、三	七七、六	二二、四	三一、九	一五、三	一四、四	五、二	五、二	一七四、八三
ひめたい		六二、五九	一五四、〇七	四〇、四八	七二、〇三	二八、一三	三五、〇〇	三、九	一七四、八三
ぶり		六四、三三	九二、五五	一六四、五三	三一、四四	二八、一三	三七、七〇	四、五	一七四、八三
飛魚									三、七
合計	三〇八、七五八	六三九、五三三	六五二、三二四	四四七、九一八	三九九、八一九	五二九、九八三	六〇〇、四一六	一〇四、二一八	七四九、八三五

拓南丸鮪冷蔵運搬作業報告

項目	航海次						
	第一次航	第二次航	第三次航	第四次航	第五次航	第六次航	第七次航
積荷数量	三〇八六、一	六三九五、三	六五二三、二	四四七九、八	三九九九、三	五二九一、九	鮮魚 六〇〇、六
鮮魚冷蔵輸送航海時間	七二時間	七五時間	七八時間	七四時間	七三時間	七八時間	飛魚 三七、七一〇
冷蔵機運轉時間	九四時間	九八時間	一三五時間	一一四時間	一〇六時間	一〇五時間	九六時間
冷蔵庫第一番船ノ温度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	二四八時間
冷蔵庫第二番船ノ温度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度
冷蔵庫第三番船ノ温度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度	〇、二度
積込開始ヨリ荷揚迄ノ時間	一三五時間	一四八時間	一二五時間	一三五時間	一二九時間	一二五時間	三〇〇時間
鮮魚船積ノ方法	全部函入	全部函入	全部函入	全部函入	全部函入	全部函入	全部函入

一 鯉節製造傳習會

(一) 趣旨、鯉節製造傳習會ノ開催ハ多年ノ繼續事業ニシテ、ソノ效果ニヨリ現今ニ於ケル本島産鯉節ハ品質ノ向上著シク進歩シ近時内地市場ニ小笠原節トシテ聲價ヲ博シツ、アリト雖モ、是ガ技術ヲ修得セシ職工ノ轉職或ハ内地、南洋方面ニ移住スルモノ多クシテ常ニ熟練職工ノ不足ヲ感ゼリ。仍テ本年度モ是カ補充並製法ヲヨリ一層改善セシム

ル趣旨ニヨリ第十六回傳習會ヲ開催セリ。
 (二) 經過並成績、七月二十六日静岡縣焼津町ヨリ實業教師三名ヲ招聘シ以テ各村會場ニ配置セル傳習生ノ指導ヲ擔當セシム。

傳習ニ必要ナル原料ハ會場ニ充テタル各工場ニ陸揚セル生鰹ヲ以テシ、鰹節製造ニ關スル一般ノ實地指導並本島鰹節製造技術ノ改善ニ關シ左記各會場ニ於テ傳習セシメタリ。

會場	所 在	實業教師	期 間	傳 習 生
淺沼龍之助工場	父 島 大 村	鈴木 藤 太 郎	自七月二十六日	九名
石田專一工場	母 島 沖 村	鈴木 隆 藏	自七月二十八日	十一名
前田衛工場	母 島 沖 村	高橋 八 百 吉	〃〃	六名
野口忠作工場	母 島 沖 村	〃〃	〃〃	〃〃
河野水産合會社工場	母 島 沖 村	〃〃	〃〃	〃〃
計				二十六名

142
747

終